

〔2番 新聞 緑さん登壇〕

○2番(新聞 緑さん) おはようございます。新聞 緑と申します。よろしくお願いいたします。

私からは、島田市の情報発信について提言・質問をさせていただきます。

インターネットやソーシャルネットワーキングサービス、SNSの普及に伴い、SNSを活用する人が以前に比べて増加しています。しかし、島田市におけるSNSの活用は、高校生から見ると不十分に思われます。これらのことを踏まえ、さらなる活用方法について質問させていただきます。

まず1つ目に、島田市の情報発信の現状について伺いたいです。

2つ目に、若者向けの情報発信におけるソーシャルメディアの取り組みについて伺いたいです。

3つ目に、ソーシャルメディアを利用した観光PRの方法について伺いたいです。

〔2番 新聞 緑さん発言席へ移動〕

○議長(紅林 貢議員) 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長(染谷絹代) では、新聞さんの1の(1)の御質問についてお答えをいたします。市では、広報紙、公式ホームページ、FM島田の3つの媒体を通して市民への情報発信を行っております。昨年実施した広報効果測定結果では、島田市の広報活動に対する市民満足度が高いことがわかりました。広報媒体である広報紙、ホームページ、FM島田について、いずれも閲読率や聴取率、全国平均よりも高い結果となっております。

一方で、広報紙を読まない年齢層が存在したり、パソコンやインターネットの使用が高齢者層にはまだまだ敷居が高いという結果も出ており、そうした年齢層の閲読率向上への取り組みが必要であると考えております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。市ではSNSを通じての情報発信も行っております。市のフェイスブックでは、広報しま

だのほか、市の観光情報、博物館情報、「まだまだ島田!!」、これは新市誕生10周年記念のフェイスブックでございます。危機管理課による防災関連情報などさまざまなカテゴリーにおいて情報を発信しております。また、公式ツイッターにおきましてはホームページの新着情報が自動で提供される形での発信を行っております。そのほかにも人事課で所管している新規職員の募集においてツイッターを活用しての情報発信をしております。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。市では、観光協会と連携しながら観光情報の発信を行っております。市の公式ホームページ、観光協会のホームページ、そしてフェイスブック、島田観光・スポーツ案内所において観光情報の発信をしております。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いいたします。

○議長(紅林 貢議員) 新聞さん。

○2番(新聞 緑さん) 質問への御回答、ありがとうございます。ただいま島田市の情報発信の課題を示されましたが、その対策について何かお考えはありますか。

○議長(紅林 貢議員) 牛尾市長戦略部長。

○市長戦略部長(牛尾伸吾) 御質問いただきましてありがとうございます。対策についての御質問です。島田市における広報媒体につきましては、大きく3つの媒体を使っております。広報しまだ、これは毎月届けられるものです。それからホームページ、FM島田、こうした媒体を戦略的にミックスして展開を図っていくことが重要だと考えております。具体的には、広報しまだを読んでいた方が、その後にホームページを見ていただいたり、FM島田を聞いていただく。それとはまた逆に、先にホームページを見ていただいた年代層の方には、広報しまだなどにもまた目を通して

いただくと、そうした紙面づくりあるいは番組づくりが重要ではないかと考えて対策をとっていきたいと考えております。

以上です。

○議長（紅林 貢議員） 新聞さん。

○2番（新聞 緑さん） 現状と課題についてはよくわかりました。しかし、市のホームページについては私自身、情報を得るのが難しいと思います。地元の者が難しいとなると、県外、市外の方がホームページを見たとき調べにくいと思いますが、いかがでしょうか。

また、市のホームページのコンセプトは何でしょうか。

○議長（紅林 貢議員） 牛尾市長戦略部長。

○市長戦略部長（牛尾伸吾） 調べにくいという御指摘をいただきました。これについては日々改善をしております。島田市のホームページにつきましては、島田市とはこうしたところである。これは特徴的なところをアピールしながら、主に各種手続に関することや、旬な行政情報の発信など、全ての人により早く、より見やすく、より便利にを着眼に置いて取り組んできております。これは現在使われているホームページが平成25年度に大幅なリニューアルをいたしました。そのときの基本的なコンセプトでもございます。これにのっとり改善をしてきておりますし、今後もその方針でおります。

以上です。

○議長（紅林 貢議員） 新聞さん。

○2番（新聞 緑さん） もっと市をPRするためには、ホームページに観光のページを充実させたり、小学生が市のことを勉強できるようなページが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（紅林 貢議員） 牛尾市長戦略部長。

○市長戦略部長（牛尾伸吾） 観光のことにしましては、SNSをはじめインターネットを使ったPRについては本当に大切なことですので、取り

組んでいきたいと思っております。特にこの頃は外国人のお客さんも多く見られるような環境も出てきておりますので、一生懸命取り組んでいきたいと思っております。

それから小学生等を対象にしたページづくりですけれども、身近な例で言いますと、ヤフーがキッズページなどをつくっておりますので、そうした取り組みも参考にしながら、一方でユニバーサルデザインという考え方もありますので、それぞれユーザーというか見ていただく方の嗜好を考えながら、先ほど言ったコンセプトに従って改善を続けていきたいと考えております。

以上です。

○議長（紅林 貢議員） 新聞さん。

○2番（新聞 緑さん） 市のホームページやフェイスブックはよく更新がされていると思います。その一方でツイッターによる情報発信は少ないと感じていますが、いかがでしょうか。若者におけるツイッターの利用者は多いと認識しております。

○議長（紅林 貢議員） 牛尾市長戦略部長。

○市長戦略部長（牛尾伸吾） それこそ御指摘ありがとうございます。御指摘のとおりツイッターについてはまだ改善の余地があると思います。現在は新着情報がそこに自動的にアップされるというような取り組みは行っておりますけれども、まだリンクの範囲が狭いということで、特に十代の皆さんがよく見ているツイッター等への情報の連携については今後一層力を入れていく必要があると考えますので、御指摘を踏まえて一生懸命取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございます。

○議長（紅林 貢議員） 新聞さん。

○2番（新聞 緑さん） ただいま若年層のツイッターの利用が多いと申し上げましたが、観光においてもツイッターの利用は重要だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（紅林 貢議員） 北川産業観光部長。

